



発行者兼編集者
 鵜 戸 神 宮
 社 務 所
 印刷所
 西 日 本 印 刷

ご あ い さ つ

宮司 佐 師 朝 規

暑中御見舞

申し上げます

世界の状勢も刻々と変動し我が国を取りまく環境も一層厳しくなる事と存じます。

本年は待望されました新鵜戸トンネルの開通により初詣での参拝者は例年より多く境内は殷賑を極め、例祭も天候に恵まれ盛大に且つ厳肅に斎行され、

神賑行事の四半的大会や剣道大会も多数の参加者を得て挙行されました。殊に三月行われたシャンシャン馬道中唄全国大会には、県内外より四百九十七人の出場があり二十八日は日南市で予選、二十九日は神宮儀式殿にて決勝大会が行われました。

又、大正頃までであった新婚夫婦の鵜戸さん詣りのシャンシャン馬道中が再現されてより第六回目を迎え県内外よりの三十八組の応募者の中から大阪・福岡・えびの市の三組の新婚の方々を選ばれ、当日はあいにくの小雨ではありましたが、新婚夫婦が一つの傘に入り仲むつまじく神前に参拝、其の後花嫁が乗った馬の手綱を花婿が引いて帰途されたのはまことにほゝえましい姿でありました。

これも偏に皆様方の限らない御協力のおかげと、謹みて御礼の御挨拶を申し上げます。

尚、暑さ殊に酷しき折から御自愛の程を御祈り申し上げます。

例祭齋行と奉祝行事

二月は南国宮崎といえども寒さに身も凍みる時節ではあるが、一日午前十一時より献幣使黒岩龍彦氏(県神社庁々長)参向の元、例大祭が厳肅且つ盛大裡に齋行された。

当日は昨日の雨も上がり責任役員、氏子、崇敬者総

代をはじめ、四神宮(英彦山、霧島、鹿兒島、宮崎)宮司、県内外神社、官公庁関係、日南市、北郷町、南郷町各地区々長、全国各地の崇敬者の多数の参列を賜った。

れた為、今年は三年ぶりに「蘭綾王」が当宮の職員によって奉納された。奉祝行事として第二十回鵜戸神宮奉納四半的弓道大会が、昨日の雨の為会場を儀式殿前広場より新駐車場に移し開催された。六三チーム、二八五名が参加し行われ、あちらこちらから笑い声の聞こえる和やかな競技であった。

又、翌日二日の日曜日には、第三十九回剣法発祥鵜戸山剣道大会が儀式殿前広場にて開催され、一六〇チーム、一五〇〇余名の参加の元、終日鋭いかけ声が飛びかき熱戦が繰り広げられた。会場は応援に駆け付けた父兄等で埋まり、盛んな声援が送られていた。

尚、四半的、剣道大会の成績は次の通り。
〔四半的大会〕
〔団体〕
▽一般①日南②後河内③中郷
▽高齡①串間A②日南③三財
〔個人〕
▽一般男子①瀬ノ口高男(串間)②鈴木利光(住吉)③井上一男(日南)④増



舞 楽“蘭綾王”

田隆夫(後河内)⑤福重鉄夫(中郷)
▽高齡男子①宇都功(大宮)②赤川実(野尻)③高妻正男(大宮)④河野福実(日南)⑤佐藤繁信(佐土原)
▽一般女子①竹山アヤ子(日南)②馬場セツミ(中郷)③富永ミチ子(三財)④柳ヤスエ(南郷)⑤平原ミツヲ(南郷)
▽高齡女子①近藤ツギヲ(南郷)②高田満子(大宮)③横山チサ(三財)④中山ナミヲ(中郷)⑤黒木フミカ(高鍋)
〔剣道大会〕
〔男子団体〕
▽一般①県警機動隊(宮崎)



▽中学①稲門館道場(延岡)②神武館(宮崎)③大塚中(同)、朱雀館道場(同)
▽少年①修道館(延岡)②至誠館(同)③上長飯剣友(都城)、剣心館(串間)
〔女子個人〕
▽高校・一般①日高葉月(宮崎北)②堅田知穂(同)③田中美穂(同)、渡辺容江(大武館)



②宮崎市(同)③宮崎市役所(同)、東諸県郡(東諸県郡)
▽高校①宮崎日大(宮崎)②延岡学園(延岡)③宮崎北(宮崎)、日南(日南)

住職甲斐芳文氏が経を奏し、御詠歌などの法要がいとなまれました。

祈年祭齋行

二月十七日、快晴のなか午前十一時より責任役員、氏子崇敬者総代をはじめ官公庁、各地区々長、敬神婦人会等の多数の参列のもと、祈年祭が宮司以下役員によって厳肅に齋行された。又、巫子による浦安の舞も奉納

された。この祭りは、年頭にあって五穀豊穡と国家の安泰を祈るもので、農耕を主としてきた日本人にとっては古代より行なわれてきた大切な祭りである。



浦安の舞

別当宮司 先賢慰霊祭



青葉若葉の木々が広がる鵜戸山別当墓地において、五月二十一日午前十一時より別当宮司先賢慰霊祭が歴代別当宮司遺族、責任役員、氏子総代をはじめ多数の参列者のもと厳かに齋行された。同祭は神仏合同慰霊祭として執り行なわれており宮

役員・氏子総代改選

五月七日氏子総代会、五月十二日崇敬者総代会を開催し、任期満了に伴う責任役員改選を行なった。尚、氏子総代もこれに先立ち各地区において総会が開かれ改選が行なわれた。その結果、下記の方々が選ばれ委嘱式が行なわれた。任期はそれぞれ三年である。

責任役員
川越国雄、細田純市、高橋良則、田中 静、鬼束達朗、波越重利、和田 皓、増竹義也
氏子総代
外山好光、品村宗利、長友正次、長友治義、川瀬力丸、松浦剛士、松田 明、鈴木直嗣、長友 泰、品原和雄、水元福美、湯浅勝好

第六回シャンシャン馬道中唄全国大会 開催とシャンシャン馬道中再現

「鵜戸さん参りは春三月よ」と全国的に愛唱されている、シャンシャン馬道中唄の第六回全国大会が三月二十八、二十九日の両日行われ、県内はもとより九州各県遠くは兵庫県などが

合わせて四百余名が出場し、少年、青年、壮年、実年、老年の各部門に分れて競われた。今回より、少年を除く各部の優勝者の中からグラントチャンピオンを決める事になった。

初日は少年と青年を除く各部の予選が、日南文化センターで実施された。二日目は会場を鵜戸神宮儀式殿に移し決勝大会が行われ、参加者は三味線や尺八、太鼓に合わせ声高らかに歌い上げ日頃鍛えた自慢の喉を披露した。

会場には小雨にもかかわらず、民謡愛好家や一般参拝者で埋まり、唄の終わる度に大きな拍手が送られて



熱戦を繰り広げる決勝大会

いた。
尚、各部門の入賞者は次の通り

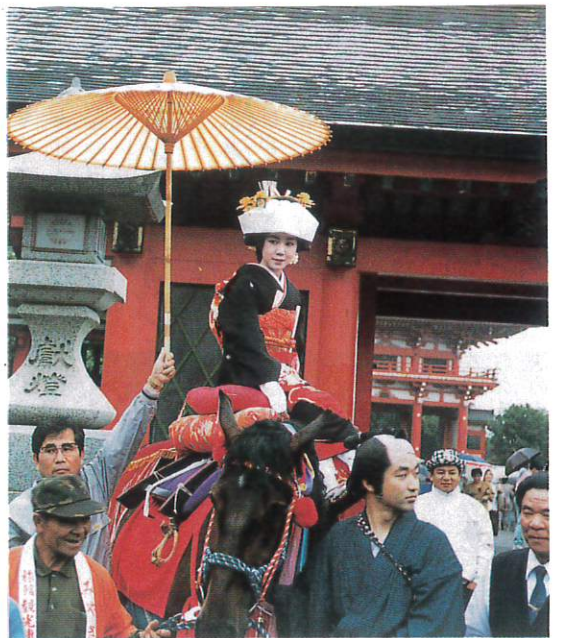
- ▽少年の部
 - ①久嶋めぐみ(日南) ②小淵愛子(宮崎) ③石津美千加(高千穂)
- ▽青年の部
 - ①倉尾由美子(南郷町) ②藤崎千春(宮崎) ③牟田寿子(佐土原)
- ▽壮年の部
 - ①矢野六男(都城) ②大

- 田原アサエ(宮崎) ③吉嶺静子(同) ④長友玲子(同) ⑤三松順子(同) ⑥横山栄子(高鍋)
- ▽実年の部
 - ①菊池芳盛(日向) ②芝絶子(西都) ③平石ヒサ子(日南) ④加治木孝代(宮崎) ⑤三尾末広(日向) ⑥川越イワエ(宮崎)
- ▽高年の部
 - ①後藤壯吉(日向) ②莊子照子(日南) ③仁田脇ウメ(宮崎) ④吉松利子(同) ⑤本田ハル子(高千穂)
- (「グランドチャンピオン」)
- ▽壮年の部 矢野六男 (特別賞)
- ▽少年の部 なし
- ▽青年の部 なし
- ▽壮年の部
 - 鐘ヶ江美智子(福岡)
- ▽実年の部
 - 那須節子(福岡)
- ▽高年の部
 - 寺岡光子(兵庫) 堅原ノブ子(福岡)

又、同大会に合わせて「シャンシャン馬道中を再現する会」主催の鵜戸さん詣りも第六回となった。

この日は、生憎の小雨模様の天気ではあったが、応募者三十八組の中から選ばれた三組の新婦さんが昔ながらの姿で登場した。本殿にて正式参拝の後、花婿が手綱を取る馬に花嫁が乗り境内を一周した。参拝者もしばし足をとめ「わあーきれい」とカメラに収めたり、一緒に記念撮影をする姿があちこちで見うけられた。

この日、鵜戸詣りをされたのは高山勝己・友世御夫妻(大阪府)、松田信次・眞理御夫妻(福岡県)、宝来茂・千秋御夫妻(宮崎県)の方々である。



鵜戸サン参詣道標

権祐宣 伊東健治

参詣道標と云っても何を指すかによって、夫々趣きを異なす。例えば鵜戸サンが鎮座す



る鵜戸岬を道標と指せば、太平洋の黒潮文化と神話の継承を述べなければならぬいし、海路に於いても信仰の流れが語れる。小さなものと成ったら切りがなくなり、それこそ道に迷ってしまう。

ここでは現在国道二二〇号線と成っている鵜戸街道を鵜戸サンの信仰の道標として述べてみたい。

街道の北の起点は、宮崎市中村町で七浦七峠を越え鵜戸サンに至り、南の起

点は日南市飯肥今町と油津とふたつ有り、共に鳥居峠を越えて鵜戸サンに至る。この街道の海岸沿いの浜道は、国道二二〇号線となつたが、峠路は茶屋跡、石垣道、石仏等の往古の旅情を残してはいるが、今は往き来する人は希となった。

宮崎市から鵜戸サンに向う途中に急所難所知られる七浦七峠がある。

これは、日の御崎峠・内海の浦・小内海の浦・鶯巣峠・鶯巣の浦・伊比井越え・

伊比井の浦・馬の峠・富士の浦・瀬平峠・小目井の浦・宮浦・烏帽子峠と以上の七つの入江と峠である。そんな具合だから街道の中でも最後まで道路完備が遅れた。

作家田山花袋も大正十二年六月に七浦七峠の山径を杖をつき乍ら草鞋ばきで歩いてお詣りしている。その際詠んだ歌が、『七浦の七浦ごとに君を偲びやさし此日をわれ忘れめや』である。現在の海岸沿い続く道程も目を楽しませてくれるが、険しい峠をひとつ越えては見える入江は一層美しく見え、苦しくはあるがその様な楽しみが有り、五十二歳の花袋の旅を慰めたのは六月の南国日南の藍色の海だった事は想像出来る。

又、日南海岸は朝日の名所で雄大な美しい日の出が拝める事でも知られて居り、視線を妨げるものなど何もない、只々沖へ沖へと広がる太平洋に時が立つにつれ朱色の濃淡が描き出され、やがて真紅の太陽が輝き乍ら昇り始める。その一瞬空と海とが燃え立ち朝日は神窟の中の本殿に差し込む景

色が生への希望を与えてくれる。

徳富蘆花は大正二年九月西郷南州三十七回忌参列の途中参詣し輝く太平洋の前で無念無想に立たずみ、千早ふる神代の昔さながらに鵜戸の窟に朝日さすなり」と詠み残している。

明治時代までは、春の風物詩として当時の新婚旅行、シャンシャン馬道中があった。花嫁の服装は、単衣の着物にシゴキ帯、白の脚絆、髪は銀杏返しか桃割れで、男は同じく単衣に黒服黒脚絆で草鞋ばきの軽装である。馬には鞍を置き布団を敷いて毛氈を置き花嫁の座席をつくり、馬の尻には美しい尻掛を置いて首には一足ごととにシャンシャンと軽く鳴る径一寸五分もある肥後鈴をつける事からシャンシャン馬と呼ばれた。

若草萌える旧三月十六日は、シャンシャン馬に花嫁を乗せ手綱を取る花婿の長い行列が此処彼処に続き当日は恰も祭礼の行列の様であったと語り継がれ、この頃の話では「嫁を鵜戸詣りに連れて行けない様な男には嫁にやるな」とも云

われたそうである。

又、旧二月十五日十六日は鵜戸サンのお接待日と呼ばれる鵜戸と榎原の両社に詣る習慣があった。この鵜戸往還の日は、三々五々打ち連れだった日薩隈の老若男女で文字通り織る様な賑いであつたと伝えられ、瀬平峠の出口にあつた三軒の茶屋などは、わらじや宿泊者の夜具が足りなくなり隣村の宮浦まで大急ぎで仕入れに行つたものである。

明治維新の廃仏毀釈までは、神仏混合で有り境内に鵜戸山大権現吾平山仁王護国寺があつた。仁王護国寺は延暦元年秋、光喜坊快久法印が桓武天皇の勅命により鵜戸山大権現の別当寺として再興されたと伝えられる。

鵜戸山大権現は宇内三大権現(鞍馬、箱根、鵜戸)のひとつで、両部神道神の大霊場、大道場として盛んになり、特に室町時代よりは盛観を極め西の高野山として広く知られた。その為お遍路さんや武芸者、修験者のお詣りが多かった。又、この頃には追いはぎも出る様になり、瀬平峠の茶屋の近くには七人斬りと呼ばれ

る所が有る。これは街道を行く七人の遍路が追いはぎに斬られた事件で、その供養碑が立っている場所がそう呼ばれている。

この街道も参詣だけでなく戦さの道と化した時代があった。伊東軍と島津軍の戦争の頃であり、日南市は時により島津の領地となり、伊東の領地であった。

文明十六年(一四八四)は伊東祐国の八千の軍勢が鵜戸路を埋めた。

又、伊東義祐(都於郡城主)の鉄肥紀行によると、鉄肥攻めの拠点とした瀬平砦城は元弘の初め矢野下野守義之が日向に下り七浦を領した時、築いたもので、三面は海に囲われ地勢は險しく海側からは登る事が出来なかった。一方対する鉄肥城主島津忠広は烏帽子峠に砦城を築き陣した。時は天文一〇年(一五四一)に始まり天文十二年三月に伊東軍の勝利で終わっている。

戦さの中でも鵜戸サンは両軍より度々戦勝の祈願が行われ、江戸時代に入ると数度となく寄進や寄付がなされ篤く崇敬された。以上鵜戸街道に纏る歴史

を簡単に述べてみた。この街道が鵜戸サン信仰に果たした役割は大きく、信仰を端的に体現すれば参拝による祈りである事を考えると、有難い事と思う。最後に遠方の崇敬者が仰つ

た「時間やお金が掛ろうとも参拝出来る喜びに変えられない」と云う言葉に歴史に裏付けられた鵜戸サン信仰の強さを感じずにはいられない。

鵜戸山玄深記(七)

又當山ハ不断常住^①初夜後夜之勒行怠ラス^②經陀羅尼^③讀誦之言音絶ル事ナケレハ過去之萬靈皆此^④功德ニ依テ夫々ニ八天佛地之果位ニ至ルヘシ故ニ當山ニ石碑ヲ立或ハ位牌ヲ置ハ永劫菩提之資糧ト成ルヘキ者也

昔ヨリ當山ニ一雌雄^⑤鳥居レリ此鳥ニ石窟之前ヘニテ御供之餘リヲ取テ飼^⑥ヲ施^⑦フ但山中ニ災ヒアラン時ハ飼ヲ喰^⑧スト傳ヘリ然ルニ此鳥一雌雄子ヲ育^⑨テ親鳥ハ何國トモナク飛去リ又年々如此又此一雌雄之外此山ニ他取^⑩鳥住^⑪ス間餘取ヨリ来ル鳥有トイヘ斥程ナク飛帰リ又定テ此鳥ハ神明使シメナラン亦是ニ大槩似タル事アリ高野山奥院ニ昔ヨリ一雌雄之鳥在眼金色

ニシテ足之爪青シ大江道網之外記云眼金色足爪青色云云^⑫天鳥^⑬非直也鳥^⑭上高野山之取傳此鳥ハ不動愛染之變身ト習フト云ヘリ亦野山道範和尚記此鳥ハ伊勢大神宮ヨリ大師之御トノイニ進セラレシト云別ニ子細有ルヘシ則御供取ヨリ毎日飼ヲ與フ若高野山ニ災ヒアラン時ハ此鳥アラカシメ飼ヲハラスト云此等之事ヲ思ヒ合セテ當山之靈明成ルヲ信スヘシ

正月五日ヨリ六日ニ及テ此兩日間當山之大神事也六日之朝夜半ヨリ於石窟^⑮毎年後夜ニ此修正會ヲ相勒ナリ此ノ時當國從大守公代参在茲亦高野山ニテモ毎年正月朔日ヨリ七日ニ至テ於金堂^⑯是ヲ行スト高野明神之御託宣ニ云修正ニハ大師ヲ始メテ諸神來臨影向有テ日本第一祈禱天下泰平之修法也ト云

- ① 初夜一戌の刻。今の午後八時頃。
- ② 後夜一寅の刻。今の午前四時頃。
- ③ 陀羅尼一梵文の呪文を翻訳しないで、そのまま誦するもの。
- ④ 讀誦一声を出して経文を読むこと。
- ⑤ 功德一ごりやく
- ⑥ 資糧一資糧



の形をした亀岩があります。この亀岩は御祭神の御母君、豊玉姫命が竜宮よりお乗りになつて来られた亀であると言伝えられています。この亀岩の背中には、水の溜った四角いくぼみがあり、そのくぼみの中に直径約一、五センチ程の「運」と刻まれている運玉を願いをこめながら投げ、みごとくぼみに入ると、幸福が訪ずれるとか、願い事がかなうとされています。

新職員紹介

巫子 杉山 和美



生年月日 昭和四十九年二月二十一日
最終学歴 日南高等学校家政科
趣味 料理
常の信条 EXCELSIOR
(エクセルシオール)



運玉

出仕 日高鉄弥

日南海岸の風光明美な所に御鎮座されている当神宮は、他の御社とは違って社務所から階段を降りた所の自然の神秘的な岩窟(御祭神、鵜嶋草葺不合命の産殿の跡と伝えられる霊地)の中に祀られています。

御祭神は、神武天皇の御父君にあたり、安産・育児

縁結の神として崇められています。全国津々浦々からお参りがあり、参拝される方々は一様に目の前に広がる奇岩怪確や太平洋の紺碧の色に心をうばわれ、神秘の岩窟に驚嘆されるようです。

手水舎から海の方を見おろすと、注連縄を張った亀

の神)が天の御柱を廻られる時、伊耶那岐命は左から伊耶那美命は右から廻られた事から、このようになったとも言われるようです。皆様方も当神宮に御参拝の折は、この運玉試されてみてはいかがでしょうか。

鵜戸稲荷神社鳥居奉納

此の度は、有限会社鈴木水産、第八十八祥福丸の鈴木年明氏より鳥居の奉納があった。報告祭は、四月五日やわ

らかな春の日ざしを浴びながら、午前十一時より年明氏他三名の参列のもと、厳肅に斎行された。



野点て

四月十九日、表千家 宮崎県日南支部西田社中 若葉会（西田宗都氏他九名）による野点てが、儀式殿前にて行なわれた。

この日は日曜日とあり、会場には多くの参拝者が訪れ、ずれ一時の安らぎを得ているようであった。



編集後記

先日、雨上がりに一度に二つの虹を見る事が出来ました。不思議な事に虹の上にもう一つ虹が架かっているのです。自然のいたずらとはいえ、こんな虹も出来るんだなと思って眺めていました。

虹といえは子供の頃、亡くなった人は虹を登り虹が消えるのと一緒に、あの世に行くんだと親から聞かされました。

又、あの世といえは、この世とはまったく逆なので水に湯を入れたり、水にお茶を入れて飲むのはいけないとか、着物を右前に着るのはいけないとか、よく聞かされたものです。

皆様方は、あの世の事についてどのように聞かされたでしょうか。 (中武)

いさみ太鼓奉納

五月五日のこどもの日、午前十時より地元の子供たち約四十名が、揃いの鉢巻、法被姿で「いさみ太鼓」を奉納。参拝者も、打ち寄せる荒波を表現した力強い太

鼓にしばし聞き入っていた。このいさみ太鼓は、鵜戸の大神様と祖先の恩とに感謝すると共に、子供たちの健やかな成長を祈念して毎年行われている。

